

2016年3月31日

自由の究極価値性

岡田裕二

民主主義は一つの手段であるだけで「自由」のような究極の価値ではない。民主主義は本質的に手段であって目的ではない。

民主主義は、平和と自由を保護するための実用的な手段であり、道具であるが、目的の足り得ず、それ自身必ず腐敗し、崩壊するものであり、永遠性を持つものではない。

更に言えば民主主義は、それが自由を確保する手段として作用しない場合、全体主義やボルシェビズムのような、最悪の独裁と圧政を生む。

これに比べて自由は最終的価値である。

イギリスの歴史学者ジョン・アクトンは、著書“The History of Freedom and Other Essays”の中で、

“Liberty is not a means to a higher political end. It is itself the highest political end. It is not for the sake of a good public administration that it is required, but for security in the pursuit of the highest objects of civil society, and of private life.”

(自由はより高い政治的目的のための手段ではない。それ自身が至高の政治的目的である。自由は優れた行政、公的管理のために必要とされるのではなく、市民社会と個人の生活が、最も価値ある目標を追求することを保証するために存在する。)

と語ったが、これは民主主義には成り立たない。